

平成28年度第5回社会教育委員の会議

平成28年10月21日(金)

午前9時30分開会

開催日時	平成28年10月21日	開会 9時30分 閉会 11時00分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	議 長 原嶋 和男 副 議 長 柴田彩千子 委 員 石田 静子 委 員 城 瑞枝	委 員 小山田佳代 委 員 佐野 郁蔵 委 員 原田 隆司	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 石原 弘一	図書館長 菊池 幸子 公民館長 前島 賢	
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 生涯学習係主事 小佐野七香		
傍聴者人数	0名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 三者合同会議の開催について (3) 平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会における事例発表について (4) その他 <ul style="list-style-type: none"> ①平成28年度視察研修について(意見・感想等) ②その他
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) リオオリンピック・パラリンピック関係事項について (2) 科学の祭典について (3) その他

原嶋議長 おはようございます。第5回、今日はよろしく願いいたします。
次第に沿って進めさせてください。
部長さん、最初によろしく願いします。

西田生涯学習部長 では、スポーツの秋ということで、文化活動も含め、なかよし
市民まつりという小金井市最大のイベントも今行われている中、科
学の祭典、ちょっと雨降られちゃいましたけれども、残念ながら。
その辺のところはありましたけれども、何とか秋晴れまではいかな
いのかな、何とかなってきたかなと思っております。

皆様、本日はどうもありがとうございます。

また、科学の祭典では、図書館協議会、公民館運営審議会と一緒
の部屋でやっていただきまして、ほんとうにありがとうございました。
当日、7,000人を超える、結局去年1万人だったので、ち
ょっと天候のせいでこれはやむを得ないかなと思いますけれども、
後半盛り返してたくさんの方にご来場いただいたかというふうに
思っております。

引き続き、社会教育、生涯学習につきましては、2020年のオ
リンピック、その前の年にはラグビーのワールドカップもありまし
て、いろいろと注目をされるような場面が出てくるかなというふう
に思っております。

どうぞ、今日もよろしく願いを申し上げます。

以上です。

原嶋議長 どうもありがとうございました。
課長さんのほうからは。

石原生涯学習課長 ないです。

原嶋議長 よろしいですか。
本日は、古家委員、北村委員、長坂委員がご欠席ということでご
連絡があったようです。
それでは、配付資料の確認を事務局でよろしいですか、お願いし
て。

小堀生涯学習係長 配付資料の確認をさせていただきます。社会教育委員の会議会

議録（第3回）、三者合同会議について、こちらは資料1 都会再通知でございます。次、平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会開催通知。冊子類になりまして、社教情報のナンバー75、社教連会報ナンバー79号、とうきょうの地域教育ナンバー124、平成28年度三市・東京学芸大学連携 地域教育スタートアップ講座、東京文化財ウィーク2016、2冊ありまして、通年公開編と特別公開・企画事業編、第25号小金井市スポーツ推進委員協議会、図書館だより第36号、月間こうみんかんの8月、9月、10月号、平成27年度事業のまとめ（小金井市公民館）、前回の会議が視察研修と一緒にとなっておりますので、ちょっと資料が多くなっております。

以上です。

原嶋議長

よろしいですか。

では、続けさせてください。次第にのりって進めさせていただきます。

今日の話の中で、視察研修の意見・感想ということがありますので、後ほど、行かれた方、ご意見・感想等ありましたらご準備いただければと思います。同じように、科学の祭典についても、来年度に向けてご感想をいただければというふうに思っております。

それでは、(1)の会議録の承認についてお願いします。

小堀生涯学習係長 すみません、これは第3回の社会教育委員の会議の会議録になります。こちらをごらんください。

原嶋議長

それだけでよろしいですか。これを承認するということですか。

小堀生涯学習係長 そうですね。確認いただいて。

原嶋議長

承認よろしいですね。

(「はい」の声あり)

原嶋議長

承認いたしました。ありがとうございました。

それでは、次、行きます。三者合同会議については、資料1をご

らんください。21日の月曜日、来月ですね。2時から4時ごろまでということです。この部屋でやるということで、もう既にこれは定例の会議の中でもお話があったかと思うんですけども、高坂憲二郎さん、テーマが柴田さんのほうからご紹介いただいて、社会教育にとっての風土、地、地域文化創成の現場から。

時程、役割分担も含めて私のほうで考えたもので進めます。柴田さんのほうから、下にあるプロフィールですか、略歴等をご紹介いただいて、あとは1時間の講演ということになります。質疑応答も15分ぐらい。

その他、連絡事項というのは、主に頭の中に入っているのは、科学の祭典で図書館さんなり公民館さんなりが取り組まれたこと、要するに反省ですね。また、それぞれの三者の現在の活動状況、こんなのを話し合っていたいただければなというふうにイメージしております。

では、簡単に高坂さん、何かほんとうにマルチな方ですね、これをぱっと見ますと。

柴田委員

講師略歴は、こちらに書いてあるとおりでございます。三者合同会議での講演のテーマなんですが、地域文化創成の現場ということで、小金井市の地域文化の大もとをなすような園芸文化とか日本文化という、江戸時代にさかのぼってのお話をさせていただきます。

地域学、地元学という社会教育の分野のお話になるかと思いますが、講師の方は今年から小金井市で会社を経営されています。それまでは杉並区のほうに会社を置いていたそうですが、今年から小金井でということで、小金井の商工会にも入って地域活動を活発にこれからしていこうという意欲を持っていらっしゃると思います。

現在、東京学芸大学の学芸の森環境機構のメンバーにもなっております。

以上です。

原嶋議長

ありがとうございます。

この方、ご存じの方いらっしゃるの。僕も初めてお会いして、楽しみにしているんですけど。

小山田委員

電話はしたことはあります。

原嶋議長 楽しみですよ。

1から5、そして講師略歴紹介、時程、役割分担でしょうかね。
何かこの流れの中で、もう一工夫とか何かありましたら、ご提言いただければと思います。課長さん何かありますか。

石原生涯学習課長 特にございません。

原嶋議長 よろしいですか。

今度の座席、細かいことなんですが、座席につきましては、小委員会ですと、こういう感じですかね、みんなの顔が見えるような形で。ブロックごとに分けて何か話し合うということではないので、そうでしたね、確かね。こういう形でみんなで顔をあわせながら、ここに講師の方がいらっしゃっておしゃべりしていただこうと思っています。このパターンはどうでしょうか。

原田委員 これ、人数がちょっと少ないのかな。

原嶋議長 そうですね。

原田委員 もうちょっと広くというか二重にしないといけないですね。
当日は、設営は我々がお手伝いということでやるのでしょうか。

原嶋議長 1時40分に集合していただいて、いらっしゃる方は。小堀さん、そのぐらいで大丈夫ですか。

小堀生涯学習係長 はい。

原嶋議長 では、午後1時40分にこの場所に集まっていたいて、やっ
ていくということでよろしくお願ひしたいと思います。

小堀さん、いいですか。設営の関係ではそれだけのことでよろしいですか。

小堀生涯学習係長 そうですね、人数的にはこの2倍ぐらいの人数いらっしゃるので、二重になってもこういう感じで皆さんの顔が見えるので。

原嶋議長 あと、パワーポイントか何かおやりになる。

柴田委員 ええ、パワーポイントを使うそうです。

原嶋議長 ああ、そうですか。ご本人がパソコンをお持ちだということで、一応こちらも用意してくださればということで、よろしくお願います。

小堀生涯学習係長 そうですね、パワーポイントの関係があると、もしかするとちょっと向きを変える必要があるかもしれませんが、再度考えています。

原田委員 こちらじゃないと見にくいですね、この形だと。

原嶋議長 あと御礼というのはあれですけれども、なかなか教育委員会も年度の計画の中に盛り込んでいくということですので、その代わりにボールペン、小金井市がそれに、箱に詰めて、あと、何か市の歴史の本ですか、この方も全部読んでいらっしやると思えますけれども、それなんかも贈呈できたらなということで、今、考えております。せっきやくです。

このことであと何かご提言やご質問ありますか。

石原生涯学習課長 三者合同会議なんですけれども、これ、社会教育委員の会議と同列の会議という位置づけがあるので、会議がありますという情報を公開した場合に、傍聴みたいな形で、ああ、こういう先生のお話だったら聞きたいなという市民の方がいらっしやる可能性もあるんですが、三者が入ってくるので、かなりこの会場、いっぱいにはなるんですけれども、座席の範囲で座れる人数であれば、傍聴は受け入れるというスタンスでよろしいでしょうか。

そこは、これはもう三者だけで傍聴はしない会議にしようということは、三者の審議会、協議会で一致すれば、そこは傍聴を認めないということも可能なんですけれども。

原嶋議長 この委員会ですらも、ほんとうは傍聴オーケーは基本ですよ。

西田生涯学習部長 単に来られていないだけで、知らせています。

原嶋議長 市の姿勢としては、そうであるのであればそのようなことで。

西田生涯学習部長 特に個人情報ですとか個人の名誉にかかわることですとか、そういうようなことを取り扱うようなときには秘密会ということで、傍聴は認めないということはやるんですけども、そういう権利関係を話すわけでもないですし。

原嶋議長 このプロフィールもよろしいですね。では、21日よろしくお願
いします。

ここで一応我々の三者合同会議が終わって、次は確か公民館なん
でしょうかね。

前島公民館長 のような気がします。

原嶋議長 そのときはまた代表の方とお話し合いを進めていきたいという
ふうに思っています。引き継ぎということでよろしくお願
いします。では、この件は終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

その次、第5ブロック研修会ですね。これについても資料があり
ますのでごらんください。三者合同会議の開催通知はいいですね。
これは11月5日、僕もいろいろな会議が入っていますけれども、
この前の小委員会でそもそもこのテーマの真ん中あたりなんです
けれども、よろしいですか。各市で取り組んでいる社会教育資源、
施設、人材の、括弧、連携的、共同的活用事例ということで一生懸
命注視して読まないは大変なんだと思います。多分、これ、武蔵野
プレイスを見学するという事は、知っていらっしゃる人いるかも
しれませんけど、小金井が貫井北センターを見学して、その説明を
されたというのと、多分同じ類いのものなのかなというふうにイメ
ージはしております。

講習会も終了後行うということですが、主に今日お話しさ
せていただくのは、この後ろにありますように、小金井市の発表が、
枠がもう既に設けられておまして、資料2のほうに14時45分

から15分間で、質疑応答入れまして大体20分になります。このテーマに基づいて事例の発表ということになっています。

小委員会を開いたときに社会的教育資減の連携的、共同的活用事例をさっとイメージしてしゃべれるかって、なかなか難しいなというのがありました。大変申しわけないんですけども、そのときに小山田さんいらっしやらなかつたんですけども、例えば貫井北センターの今の活用状況、その活用状況が目的に沿ってどんなふうに進んでいるのか、もう一つ、あそこで言われるのは、若者をどう取り込んでいくか。要は若者をどう発展的に活躍させていくことができるのか。うまく言えないですけども、こんな感じなのかな。

そんなことで、そういう事例について小山田さんに無理にお願いをした格好にもなります。かなり強引に電話でもお願いした格好になっているところで現在に至っていることになっています。

小山田さんって無理にお願いしましたけど、いや、私は、僕は、この点だったら発表しますという人がいれば、全然構わないんですけど、いらっしやらなければ。

いらっしやらないようですので。

では、小山田さん、ちょっとアウトラインというか、何かもし発表されるんだったらこんなふうにやりたいんだというのを、一応皆さんにお話ししていただければ助かります。

小山田委員

分かりました。何か、とりあえず原嶋議長からご連絡いただきおまして、一応、ちょっと今、準備を実はさせていただいております、市民のNPOが運営するというので、そちらのNPOとあと貫井北町センターのほう、ちょっと行って、館長とかとお話をしてきました、どのぐらい、どのようなお話かというアウトライン的なことはちょっと今、出させていただいているんですけども、一応貫井北センターの概要ということで、市民が運営する公民館、図書館ということでそれぞれのちょっと公民館、図書館の概要というか、現状、どういうことをやっているかというふうなことをそれぞれ図書館、公民館ということでお話をさせていただきます。

それぞれほんとうに市民が運営するというので、図書館ではいろいろ、ただ貸し出しをするということだけでなく、おはなし会をやったりとか、あと何かいろいろちょっと楽しい、ぬいぐるみのお泊まり会とか、そういうのも、それ、また今度説明するんですけ

ど、そういう企画ですとか、あとはビブリオバトルという本のとかをやっているから、そういったことをご紹介したり、あとは公民館のほうはやはり若者の取り組みということで、北町ユースサポーターということでいろいろなことをされているので、その取り組みについてちょっとそこに重点的にご紹介をさせていただいて、ちょうど先日、未来会議ということで、ユースの若者たちが自主講座で自分たちの企画で市長をお招きしていろいろ話そうというのをされてきて、ちょうど私も参加していましたので、そのときの様子を、ちょっとまた重点的にご紹介しようかと思っています。

そのほか、全体的には、なので、NPOが運営して、どういうふうによくなったかという方向のお話にはする予定ですが、利用者の状況の変化ですとか、そういった利用者アンケートでもよい評価を得ているとか、そういった利用者状況の変化は、ちょっと資料をもらってきて、グラフとかも前年度対比みたいなのをもらってきたので、そういうのもちょっと紹介してというようなことで。

多分、この、ずっと話していると多分15分ぐらいはこれでもう終わってしまうのではないかと考えておまして、最後は共同ということで、今、理事と現場の職員とで、わりと理事も今、実際の講座を見にいったりとか、行ける範囲でいろいろ見学だとか、そういうのを行こうなんていうことになっているので、そういった市民目線で市民の思いを反映させたような、公民館、図書館になっていけたらいいのではないかと考えて取り組んでおりますというようなことで15分いけるのではないかと考えております。いかがでしょうか。

原嶋議長 ありがとうございます。小堀さん、その連携的に何か。もし、後であれば2人で。発表の仕方とか。

小堀生涯学習係長 そうですね。

小山田委員 じゃ、そのグラフとか小堀さんに。私、後で。

石原生涯学習課長 公民館長とか何かないかしら。公民館の関係だから。何かあれば、これもとか。

前島公民館長 貫井北のほうかね、館長がしっかり教えてくれると思います。

小山田委員 今、貫井北とNPOのほうも、東分館のほうもスタートしているということで、東分館のほうの利用者の状況としては増えているというデータも出ているので、そのあたりも一応お見せできるかというところですけど。何かありましたら、また。

原嶋議長 ご指導のほどよろしく。

小山田委員 ご指導のほどよろしくお願いします。

原嶋議長 たしか未来会議も何かあれですよ。ホームページに結構アップしていますよね、丁寧に。

城委員 済みません、この若者の取り組みで、一昨年貫井北館長のほうから依頼があって、お花を子どもたちに教えてくださいということで年末にやったことがあるんですけども、大変好評だったので、何かすごい取り組みがなされているなというの、私も初めてでしたけれども、それは学生で、幼稚園生から22歳までの若い方だったんですけども、定員をオーバーするぐらいに集まっていたので、貫井北町センターというのはすごいいい取り組みをしていらっしゃるなど、若者を取り込む事業をしていらっしゃるなというのを感じました。

原嶋議長 もしよろしかったら、15分の後。

城委員 いえいえ。

原嶋議長 つけ足して、大いにアピールしていただくと。5分と言わず。いいじゃないですか、今の。やっぱりいいところを宣伝しないと。

小山田委員 そうですよ。

西田生涯学習部長 北町と東の公民館もそうなんですけれども、ちょっと特異なというか、小金井市独自のやり方をしています。こんなこと、ご承知

だとは思いますが、公民館のほうには企画実行委員という方が各館にいまして、その方々は市民なんですよ。これは小金井の公民館が発足した当時から、そういう市民の人と行政の職員が一緒になって企画をして、それで市民に講座を提供するというような、大まかに言うとそういうふうな仕組みでやってきたんですが、今度の北と東については、その職員につきましても行政の出身ではなくて市民がつくるNPOの人たちだということで、要するに立場をちょっと異なっている市民の方同士が話し合って、小金井市の公民館の基本的な考え方がありますから、それは逸脱しないようにしながら運営しているというのは、非常に市民が手づくりでやっているというところで、ほんとうに特筆すべき社会教育活動だなというふうには思っております。ちょっと蛇足ですけども。よろしくお願ひします。

原嶋議長 ありがとうございます。

柴田委員 学生も貫井北のYAサポーターになって、かなり育てていただいております。

原嶋議長 詳細は、柴田さんのお話はそこに入れてもらおうと。柴田さんいらっしやらないから。どんどんアピールしていただいて。

小山田委員 ほんとうに今、柴田委員さんがおっしゃった、若者たちの、これも少し聞いてはいるんですが、やはり自ら企画して、失敗もしてもいいんじゃないかというような感じで、失敗から学ぶこともあるんじゃないかということで、やはりその後を、プロセスを大切にされますし、終わった後もかなり職員の方が一緒に入ってフォローして、生涯学習ということにつながっていったらというような取り組み、結構丁寧に若者たちを見てくださっているというのは感じます。

原嶋議長 そのほか、今ここでつけ加えとかありますか。申しわけないけど、忙しい中。資料作成についてよろしくお願ひします。

小山田委員 資料作成は、ちょっとご相談をさせていただけますか。よろしくお願ひします。

原嶋議長

いいですかね。お願いします。

その後、このスケジュール表だと、武蔵野プレイス、行かれた方もいらっしゃるようですけれども、裏にはアクセスの方法が書いてありますね。このところのレジユメのところでは質問、あるいはご意見ありますか。当日の参加、不参加は、小堀さん、掌握されている。あるいはここでとる。

小堀生涯学習係長　そうですね、委員さんは6名、研修会、親睦会参加ということで、あと事務局が行きます。

原嶋議長

よろしく願いいたします。

この件で、あと何かありますか。小山田さん、よろしいですか。

小山田委員

はい。

原嶋議長

ほんとうに申しわけありませんけど。

小山田委員

頑張ります。

原嶋議長

ありがとうございます。

それでは、次のところに行きたいと思います。視察研修については、意見・感想等ということですので、行かれた方に忌憚ないご意見をいただこうかなと思っています。二中、六小、この間に小堀さんに非常に調整していただいて、大変だなと思っています。また、小山田さんのほうも調整していただき、大変助かりました。

口火、原田さん、ちょっとご感想。二中、六小でしたよね。

原田委員

二中でベテランのコーディネーターの布さんのお話、概略を伺った上で、六小の実際やっという皆さんの話を伺うということで、大変いい構成で、ずっと頭に入ったという、わかりやすい楽しい研修でした。

二中に行ったときにびっくりしたのは、中学生の人たちが僕らを見て向こうから挨拶してくれたんですね、「こんにちは、何しに来たんですか」って。ちょっと今の若者については珍しいなと思って

ね。そういうのも、多分教育の成果なのかなというふうに、まず感じました。いい雰囲気の学校だったんですね。

布さんのお話で、じゃ、何でコミュニティ・スクール、地域連携をやるかという、その目的はもちろんですけれども子どもの教育のためであって、特に子どもの生きる力を育むんだと。これ、ずっと昔から、10年以上前から言っているけど、なかなか具体的にうまく行かない、みんな学校で悩んで、先生の負担ばかりになっちゃうとか悩んでいる部分ですけれども、その生きる力を育むために学校を開くんだと。学校が開くだけじゃなくて、地域もそれに応えて力を出すんだというのが基本ですという話を伺いました。

学校の教育だけじゃなくて、教科の教育だけじゃなくて、生きる力を育むためには、自分で考えるとか自分で判断するとか自分で表現するとか、そういう力をつけなきゃいけないけど、そのためには地域の皆さんの力が必要なんだということがよくわかりました。

実際、六小に行って活動の状況をお聞きしたところ、そういうのが具体的に行われているということがわかりました。特に、これだったら僕でもできるかなと思った、高齢の方が月曜日のある時間に来て、昔からの遊びを子どもたちに教えるというか、一緒に遊ぶという時間を設けているということですが、それが子どもたちに非常に人気があるとか。一例ですけど。そういうところから地域の高齢者の方と話すという中で、いろいろな力をつけるんじゃないのかなと思いました。

市が特にこうやって力を入れてうまくいっていると、やっぱりコーディネーターの方とか先生とかサポーターとか、いろいろな人の力が、ブリジストンの施設の力もあるのかな、立派な体育館がありましたけれども。いろいろなことがうまくかみ合っているのかなと思いました。

あと、だから、あれをまねしてどこでもやろうというふうに考えないで、さっき、部長さんのお話でなるほどと思ったのは、やっぱり小金井は小金井のやり方で公民館、図書館、社会教育を連携してやっている。そういうふうに、それぞれの地域がそれぞれの地域の得意なところで社会教育の厚みが増してくる。教育の幅を広げていくということが必要なのかなというふうに感じました。

大変有意義な研修でした。

原嶋議長 総論的にうまくまとめられると言いつらいんですけど、遠慮なく。どうですか。では、城さんも行かれましたよね、お願いします。

城委員 私も初めて学校というものの、こんなに保護者が一緒になって、しかも子どもたちもすごくほんとうに挨拶もよく、すごいなど。企業の力もあるんでしょうが、体育館も立派だなと思って、いろいろな父兄と、それから地域と子どもたちと保護者とか連携がすごくうまくいっているの、こういう形でできるのかなと思いました。

小金井市はその企業がないのでなかなか難しいでしょうということもちょっと聞いたんですけども、何とか地域の親と子どもたちでもう少しかかわり合いのあることが何かできないのかなというのを、ちょっと考えてみました。

具体的に何なのかというのは、まだちょっとわかりませんが、もうちょっと何かできたらいいのかなというのを感じました。以上です、済みません。

佐野委員 佐野ですけれども。

原嶋議長 順番で、では、済みません。

佐野委員 何も話さないのもよくないでしょう。一つ感じることは、財政規模が同じようなところに1回行ってみたいなど。次、小金井と小平の財政規模というのは随分違うんじゃないかなというように思いますので、ですから、小金井の財政規模と同じようなところにそういうものがあるのであれば、ちょっと伺ってみたいなどというのが、まず感じました。

それとあと、私も学校の運営連絡員を緑小学校で仰せつかっているんですけども、ちょっと雰囲気が違うなという気がしました。あれは要するにフリースクールの、そういう会合だったのかなというふうにも感じたんですけども。一つは、今、女性の働く方が非常に多くなっていて、昼間集まるということが非常に難しくなっているのではないかなと思うんですね。ボランティアの活動においても非常に難しくなってきていますので、あそこは夜開いていましたね。ですから、あれも一つ、そこに集まってこれる時間帯というか、そういうことも考えられて、あれは確か7時からでしたね、そのぐ

らしい時間で勤めがあってもその帰りに寄れる、その会議に参加できる。それもちよっと考えていったほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。ですから、昼間出られない人は、そういうところに参加できない、その可能性があるので、できればその時間的なものもいろいろ考えていただいて、ああいう会議を持ったら、より多くの人が出られるんじゃないか、参加してくれるんじゃないかなというふうに思いました。

あともう1点は、あれは私もちよっと質問しましたけれども、今、教員の方が非常に多忙で、本来教員というのは生徒との時間を、共有する時間を多く持つということが一番いいんじゃないかなと私は思っているんですけども。というのは、私、小さいころは結構学校の先生と一緒に遊んだ思いがすごく残っているんで、今、見ていると何かそういう部分が少し少なくなっているんで、ですからああいうコミュニティ・スクールをやった場合に、先生の負担はどうなんですかという、私、ちよっと質問をさせていただいたら、サポーターの方の力が随分強いみたいなことで、先生に対する、先生の負担というのはそれほどありませんよという、そういう回答があったので、そういう中でああいう事業を展開できるというのはすごくすばらしいことだなというふうに思って帰ってきました。ですから、それが、先ほど原田委員もおっしゃったように、小金井市でそれができるかという、なかなかそれは難しい面もあるんじゃないかなと思いますけれども。いろいろ学ぶ点はたくさんあったと私は思っています。

以上です。

原嶋議長

ありがとうございます。

小山田委員、お願いいたします。

小山田委員

皆様のご感想もまさにそのとおりということはあるんですが、私のほうは前期に行った国分寺のほうも一度コミュニティ・スクールに視察、見学に行っておりまして、私もちよっといろいろ学校支援ですとかコミュニティ・スクールのほうもいろいろ見に行ったり、ほかにも見に行ったりというようなことも、これまでもあったもので、小平のほうはほんとうに昔からというか10年ぐらいつとやっていたらっしやって、熟成している形ということで、学校のほうも

地域みんな、学生さん、児童とか生徒も一緒にうまくほんとうに連携とれてやっているということで、小金井のほうも、何かしらの形で足がかりでヒントを得て、何かできるあちらの方向に持っていくことがやはりできないのかなというのが、ちょっと私としてはずっと思いながら拝見させていただいていたんですけれども。

うまくいっている協議会とかも委員会も初めて参加させていただいて、それはかなり先生も地域の人もほんとうに一緒にいろいろすごく話されていたので、先生がすごくいきいきと楽しそうにしているか、いろいろ話されていたのが、何かこの学校に来る先生たちはすごく楽しいんじゃないかなという、思ったんですが、今、先生、ほんとうに大変だと、多忙でとさつき佐野さんもおっしゃっていましたが、そういう状況にあるので、やっぱりああいう形のコミュニティ・スクールというか、そういう地域の人たちが一緒に入ったりして、うまく回っていけば、先生のほうも笑顔になってきて、先生の負担も逆に減ってきて、生徒と過ごして向き合う時間が増えていって、いい循環になっていけばいいのかなというのを、私もちょっと委員会は初めて出させていただいたので、とてもよいものなのだなというふうに感じました。

私も前期からも視察しているので、何か小金井で少しでも足がかり的なことがこの後、やはりできたらいいのかなというのがちょっと思っておりまして、先ほど原田委員もおっしゃっていたような、高齢者というか、もちろん高齢者じゃなくても学生さんでもいいんですけれども、例えば休憩時間とかにちょっと行って、何か昔遊びだったり遊びを提供したりということであれば、例えば日本文化でほんとうに、この社会教育委員の今のメンバー、そのまま行ってもできるんじゃないかという、皆さんいろいろなことをされていらっしゃるのというような、そんなところからでも何かちょっと一度小学校の休憩時間とかにお邪魔させてもらって、そういうようなことでも試行的にできたらいいんじゃないかなというふうなことを思って帰ってまいりました。

また、ちょっと今後のそういった方向のことは相談させていただきつつ、何かできたらなと思っています。

以上です。

佐野委員

ちよつともう一言いいですか。

原嶋議長

どうぞ。

佐野委員

地域の高齢者というかりタイアされて時間がある程度ある方がいらっしゃれば、今、各学校区で放課後子ども教室というのがやっているわけですね。それは要するに子どもの安心・安全の居場所を確保するというところでやっているのですから、そういうものとうまく連携をとって協力していくというのも一つ、方法ではないかなと。小学校の授業が終わった後にそういう教室を各学校区で持っていらいちゃいますから、何かそういうところにうまくドッキングしていけば、また力を発揮していただけるのではないかなというふうに思います。

昨日も一小さんの放課後子ども教室にちょっと見学に行かせていただいたんですけども、やはり女性の方がみんなやられているんですね。ですから、ああいうところにも少しリタイアされた方とか、時間がある方が入っていけるような、何か道筋といいますか、そういうものをつくっていければ、小金井のそういう一つのものででき上がっていくんじゃないかなというふうに思っています。それで、今、学童保育をどういうふうにしようかということも話に上がっていますので、多くの市民の方がそういうところにボランティアとして参加していけるような形をとると、子どもたちにとって非常に有意義なことができるんじゃないかなというふうに思います。

原嶋議長

ありがとうございます。

では、石田さん、お願いします。

石田委員

石田です。私も前期から参加させていただいていましたので、前期に杉並の向陽中学という中学を視察したときに、卒業生がコーディネーターとして、その学校の取り組みに参加していたんですね。そして、今度も同じように六小が卒業生の父母なんか意外と多くて、特徴として参加していた中で、子どもがその学校にいたということでお父さん、お母さんも学校のやり方になじんでということがあって、運営が結構スムーズにいくのと、毎週水曜日の夜に集まってテーマを決めて2つに分かれてそのテーマについて協議していましたので、物事の協議する内容が、密度が濃いということと、

その中で先生方が子どもの実情ということで、子どもの学習、自主学習帳を見せていたんです。それで、漢字でも算数でも何でも子どもが好きなものをノートに書いてきて先生に見せている。すると、それに対して先生が、ほんとうに細かに、よくできたねとか、数学の計算が間違っていれば、ちゃんと赤で直しているんですね、一人一人に。そして、それに友達と今日遊んだ、楽しかったということが感想文があると、友達ができてよかったねと言う一言を入れているんです。

先生のその一言が子どもに与える影響というのはとても大きいので、自由に子どもに接せられる時間を、コーディネートすることによって、保護者が先生につくってあげている。例えば、さっき佐野さんが質問した、そんなに苦ではありません、大変ではありませんよと言っているのは、先生が自分の先生としての仕事ができるように持っていつているという結果だなと思って、とても成功しているなということと、帰りに小山田さんと私、少し先に帰りましたので、どこかでそれが、例えば私も城さんもそれなりに仕事を持っていて何かしている、そういうものがどこかに生かせないかなと話しながら帰ってきましたということです。

原嶋議長

ありがとうございました。

柴田さんは行っていらしてできなかったんですね。

柴田委員

はい、残念ながら。

原嶋議長

後で、もしよろしかったら、お話を伺います。

僕のほうは、もう簡単に、感想ですね。この2つの学校さん、ほんとうに訪問者慣れをしているということで、ああいうことをぺらぺら。六小のトップの方はもうクエスチョンまで自分でつくって、そのクエスチョンに対して自分で答えちゃう。多分、もういろいろな質問があって、その対応、どうせもう時間作るんだったら、これをやっちゃおうということで。

布さんですか、彼女みたいな2人、3人いれば、この学校はかなりもっちゃうんじゃないかなということで、物すごい人だなと思う。ただ、これだけの人って、そんなにいないんじゃないかなと、僕自身は思っています。かなり学校には入り込んできているし、最

初、多分学校とあつれきがある中で、いろいろうまくやってこられたのかなということが一つあります。

それと、やっぱり学校の先生と同じ、非常に勉強をされていますね、特に当然子どもといろいろな対峙したり、一緒に勉強したりするときに、今の子どもたちの様子について、よく勉強しようという姿勢がすごくある。

ちらっと出たのは、発達障害、いろいろ子どもの育成の中で、そういう発達障害的な子の指導が難しいし、クラスや担任の先生を悩ましている部分があるんですけど、そういったこともお話しされていたので、先生と同等に話せるような内容でここまでできていらっしゃるのかなというふうに思っています。そんな2点を感じました。

短い時間の中で要領よくやってこられて、そのエキスが冒頭というか、半紙に書いてあった例が、あれをもしよろしかったらコピーをいただければ、僕なんかもう少し勉強できるのかなというように思っています。要望なんですけど。

小学校は厳しいこと言うと特化された学校なのかなと思いました。

先生方も、あんな若いのに結構堂々と連絡事項で発言されているというのは、それなりの人事的なものも、場合によってはあるのかなというように思いました。ただ、初めてああいった会議を見させていただいた中で、誰が先生なのか、参加者なのかわからないぐらいの楽しさをやっていたというのは、いいかなと。最終的に何か連絡事項で上がったの、ああ、先生だったのかみたいなの、そういった意味では、とても何か友好というか、楽しそうにやっている会なのかなと。これはかなり持続、もっともっと可能なものになっていくのかなというのがありました。

柴田委員

当日、伺えなくてほんとうに残念なんですけれども、小平の布さんって名コーディネーターでよく知られている方で、やっぱりコーディネーターにすばらしい方がいらっしゃる場所は、ほんとうに成功しているのかなというふうに思います。保護者の中で、保護者のOG、OBですか、お子さんがその学校を卒業しても、保護者は残られて学校支援をしているというようなコーディネーターさん、何人か知っているんですけれども、すごく熱心で、先生方の様子も職員室の様子もよくわかっていまして、その職員室との連携もという

のがとてもうまくできているということと、やはりコミュニティ・スクール、うまく進めていくためには、先ほどもお話が出ていましたが、教職員の方の多忙化を防ぐ形でやらなければならないということで、例えば学校の外との交渉って副校長先生とか教頭先生が中心になってされると思うんですけども、そういったところで学校事務の職員さんがどうかかわっていくかとか、そういったことも一つ課題になるのかなと思います。

それと、コミュニティ・スクールは、もう全国的に、今、国が推進しています。昨年の12月に、できれば小学校、公立全校をコミュニティ・スクールにしたいというような方針を打ち出されて、例えばこの近隣で言えば八王子は全校で108校、公立の小中がありますけれども、3カ年で全校をコミュニティ・スクール化するか、あと、例えば神奈川県であれば、高校ってコミュニティ・スクールがなかなかないんですけども、県立の高校を全校コミュニティ・スクール化するという計画も打ち出していたり、かなり活発に動いています。

そういったときに小金井市、どうするのかということが問題になるかと思うんですけども、やっぱり小金井市らしさというか、小金井スタイルというような形の、もしやるならばコミュニティ・スクールをする必要があるのではないかというふうに思います。先ほど、佐野委員からもご意見が出たように、財政規模というような側面もありますし、また、保護者、現役世代はかなり時間がないことも、私の保護者の周りの方々の様子を見ていてもありますので、リタイアされた方や、学校の保護者のOG、OBという人たちをどう取り込んでいくかとか、いろいろな課題があるのではないかなというふうに思います。

原嶋議長

ありがとうございました。この研修を通して我々が全員何か拳を上げて何かしようということではなくて、学校とのかかわりを少し勉強していこうというところから出発しています。

ただ、小委員会なり、こういった理事会の中で、こんな青写真を持っているんだみたいなのを、その他のところで話されても良いかと思いますし、学校にかかわっていらっしゃる人は、こういったような研修を受けて、どうでしょうかみたいなご提言もされてもよろしいかなというふうには思っています。

継続性って、これからないんですけれども、小委員会なり、この定例の委員会の中で、何かこんな青写真を持っているんだということであれば、遠慮なくお話ししていただければというふうに思っております。

ほんとうにありがとうございました。よろしく申し上げます。この件はよろしいですか。

特にこのことで研究集録とか何かいたしませんので、そんなかたのようなものじゃなくて、肩肘張らないでやってきた中身なんだというふうに思っております。

その他では、何か。来年度のことですけれどもよろしいかなという。もし、よろしかったら、来年度、もう1年我々任期ありますので、こんな研修をやったらいいかというのが、急に出ないのかもしれませんが、今ここでありましたら、お話ししていただければというふうに思っていますけど。どうぞ。

小堀生涯学習係長 済みません。ちょっと前にもご相談させていただいたりしていただんですけれども、第3次生涯学習計画等でも生涯学習センター機能についてというところを出させいただいております、センターそのものをつくるということは、やっぱり現在ちょっと難しい部分もあるかと思っておりますので、そういう生涯学習センター機能を持っているような自治体等に伺うというものを、一つあるかと思うんです。先ほど、部長から聞いたんですけれども、狭山市さんのほうでNPO法人さやま生涯学習をすすめる市民の会というところと協働で狭山駅のすぐ目の前の市民交流センターの2階を使って生涯学習センターとしての機能を果たしているところがあるというところで、そういうところは市の施設の一角を使ってという形でやられているので、小金井のほうでも勉強になるかなとも思いました。

以上です。

西田生涯学習部長 ちょっと補足させていただきます。

原嶋議長 どうぞ。

西田生涯学習部長 狭山市の場合も、生涯学習センターというような建物を建てて、そこで大々的にやっているというわけではないんですね。先ほど、

係長の方から申しあげましたように、駅前のビルの一角にNPO法人の人がコーディネーターというか、そういう形で常駐していて、そこに相談に来られた方に各種の生涯学習の件につきまして相談に乗ったりご紹介したりというようなことをしているようなんですね。

それを、ちょっとおもしろいなと思ったのは、市の職員がやっているんじゃないくて、そのNPO法人の生涯学習を担っている、そののところの方がやっていらっしゃるといふようなところがあって、私どもも図書館、公民館にNPOを導入してやっているようなところもありますので、そういった面で、先ほどのコミュニティ・スクールもそうなんですけれども、今、何でもかんでも行政が全てやって、こういう言い方するとあれなんですけど、やって差し上げるという時代では、もうないと思われまます。

やはり市民の方が市民力を発揮していただいて、行政のほうも巻き込みながら、どういうふうに進めていくかというふうな、そういう時代に立ち至っているのかなというふうに思っています、そういう意味では、狭山、別にこれは決めたわけでも何でもないんですけども、一例として、ちょうど推進計画の中に生涯学習センター機能というふうなことがうたわれていますので、一つの参考、小金井市の要するに財政が厳しいとかという、そういう中で市民の方がどうやってこの生涯学習を身近に感じて、さらに参加、参画していただけるかというのを考える上でも、ちょっと参考になるのかなと思って、先ほど係長のほうには耳打ちをさせていただいたというふうなことでございます。

以上です。

石原生涯学習課長 議長、あともう1事例なんですけれども、私、今月、東京都の家庭教育の連絡協議会ということで23区と多摩地区、島嶼地区の家庭教育の担当者が集まる会議のほうに出てまいりまして、その中で、ちょっと近隣でおもしろいなと思ったのが三鷹市さんなんですけど、三鷹市さんは生涯学習のセンター機能とか、そんなことを大上段に構えていらっしゃってやっているわけではなさそうなんですけれども、「かきしぶ」というシステムがあるんです。ちょっと平仮名だったか片仮名だったか、平仮名、片仮名の混在だったか忘れたんですが、そういう何かウェブ上でそんな家庭教育に関するよう

なものを誰でもアクセスして、必要な情報が取り出せるみたいな、そんなような試みもやっているんで、どこかのそういうやっている事例みたいなのも一つ考えられますし、システムとしてやっているものとしてもそんなものもございますので、いろいろそういうところをあわせてご検討いただければと思います。

西田生涯学習部長 三鷹ですと近隣になりますので、例えば狭山と抱き合わせみたいな方向性も考えられる。バスがチャーターできればということもあるんですけども。いろいろな組み合わせがあると思いますし、私どもの小金井市生涯学習推進計画で、ずっと積み残しになっていて気になっているものということになりますと、その提言をいただいて、まだいまだに取り組みについて具体的なものが出ていないかなというところがあるので、そういう取り組みも来年度、コミュニティ・スクールとか、そういう流れもあるんですけども、そちらのほうもちょっと念頭に入れていただければありがたいという気持ちはあります。

原嶋議長 これからの方向性は皆様方からこういう発信があった中で、こういうのはどうだろうかというのは出てくるかもしれませんが、そしてそういう会でまた話し合っ、あるいはその委員会の中でも話し合っ。今の機能センターについては、確か三者ですね。ああいった中から提言があつての、西田さんおっしゃったように盛り込んでいただいて。機能の充実化についてもどうするのかということになるとは思いますけど。

佐野委員 一つ、今日は部長、課長さん、いろいろ係長さんも見えて、要するに行政の発想の柔軟性というのを、やはりちょっと考えていただきたいと思いますね。発想の柔軟性、要するに市民のほうの方が柔軟なんですよね、どちらかという。ですから、それを受け入れていただけるような行政のほうの柔軟性も、ぜひお願いをしたいなというふうに思います。

というのは、財政的なもので、ぱっと全てシャットアウトするというのではなくして、もう少しいろいろ柔軟に考えていただいて、市民が持ってきたそういういろいろなアイデアについて一緒になって考えていただくようにしていただきたいなと。そうすると、い

ろいろな懸案というのが集まってくるんじゃないかなと思うので、柔軟に受け入れて、決めるというんじゃなくて受け入れてもらいたいなと思います。

済みませんけれども。

原嶋議長 今のは行政の懐の対応ですかね、どっちかといったら。

原田委員 よろしいですか。

原嶋議長 どうぞ。

原田委員 今、ご提案を伺っていて、いいなと思ったんですけども、計画で生涯学習センター機能の充実を目指す、建物じゃなくて機能なんだということで議論をして、ああそうだったんですが、そう言われても、じゃ、一体その機能というのはどういうものかって、私なんか素人なので、雲をつかむようなことだったんですね。今、事例が2つ出されまして、ぜひ見てみたいというふうに思いました。この機能と言いつ放しだと多分いつまでたってもその計画に乗っているだけになっちゃう。そういう意味では、前進させるためには、ぜひやりたいなと私は思いました。

原嶋議長 ほかに何かありますか。視察研修。今の話を受けて、もう少し待っていただけますか。いいですよ。

西田生涯学習部長 そうですね。また小委員会等で話していただいて。いろいろな方向性が、今、市の生涯学習という分野にも言われているかなと思っているんですね。佐野さんのお言葉というのは非常に重いところでありまして、まさにこれが一番大きいんですよ、正直言うと。どこまで柔軟に行政が、じゃ、ほんとうにできるのか。言葉では確かに柔軟にやってくれて、よくわかるんですよ。じゃ、それがどこまで許されるのかというのが、実はこれが非常に難しい。そこが、まず一つは市によってやり方というのがそれぞれありますよという方向もありますし、どうしても予算の絡み、それからいろいろな市民の方の考え方を聞いて、どのようにそしゃくできるのかという問題もありますし、そういった中でほんとうに試行錯誤しながらや

っていくしかないのかなというふうに、私なんかは思っているところなんです。ですから、来年度すぐに佐野さんのお言葉で、じゃ、柔軟になんてすぐできますよとかというんじゃないで、ちょっとずつでも前進をしていきたいなというふうに思っています。

少しは行政も聞く耳持ってくれたかなみたいなところが、年々、ちょっとずつ積み重なっていけば、気がついてみると、大分もう10年前と違うよねみたいな形になっているのいいかなと思っていますので、皆さん方で議論していただいて、その中で我々も真剣に考えて、どう取り組めるかというのを考えていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

原嶋議長

だんだん重くなっているのです、その話を続けますか。

実現可能なのか、また、持続可能なのかとかね、いろいろな広い範囲で考えなくちゃいけないかな。

西田生涯学習部長 議長のおっしゃるとおりで、打ち上げ花火みたいにぱんと打ち上げるだけだったらすぐできるんです、何でも。それをどう持続させるかなんですよね。

例えば、コミュニティ・スクールなんかでも重要になるのが、やはりコーディネーターの方、例えばその方がすごいスーパーマンみたいな方で、いろいろ常人にはできないようなことができるというような方がいらっしゃった場合、その方がいるときとか、その方と非常にうまくいっている学校の教職員の方がいる間はいいんですけども、そうでなくなったときにそこで終わってしまうということは、やっぱり行政としては望ましい話ではないですよ。ですから、よく私なんかは考えるんですが、スーパーマンの方がやるのではなくて、アベレージの方、つまり平均的な方だったらできるなというレベルまでいかに落とし込んでシステムをつくっていくかということは、これは非常に大事なのかなと。

そういう方がいて、得てしてやって、何かあってその後うまくいかなかったら失敗事例だみたいに扱われてしまうのも非常にもったいないですし、そういう意味ではアベレージの方が普通にやって、周りの方も普通にやっていただければ、非常にいい成果が上がるんだというシステムをどうつくるのかというのが、これは各市によって多分違うと思いますので、それが各市の知恵の出どころである

し、その辺に我々は取り組んでいかなきゃいけない、そういう意味では学校教育と生涯学習の壁といったらちょっと語弊があるんですけども、その領域をいかに超えてお互いに手を取り合って不信感を持つことなく、お互いにお互いの領域を侵すみたいなそういう感覚で物事を進めていかなないように注意しながらやっていけるかということが、非常に重要になってくるのかなと思っています。

これは来年から、じゃ、やりますとかという話ではないかもしれないんですけども、皆さんで議論を深めていただきたいなという、そういう内容ではあると思っています。

済みません、だんだん重くなっていっちゃって。

原嶋議長 とりあえず小委員会等々で、また今のお話あるいは皆様方のアイデアをいただきながら俎上に載っていくことに。次回、あるいは次々回になるかわかりませんが、来年度ということなので、予算執行の場合、4月超えないと駄目ですよ、まだ。

西田生涯学習部長 そうですね、もう今日締め切りなんです、予算。

原嶋議長 そうですか。そうすると。

西田生涯学習部長 予算要求はしますので、どこに行くかですとか、どういうテーマで見にいかうかとかというのは深めていただくことは可能なんです。例えば、1回分しか予算はありませんので、3回行きたいとかと言われると、ちょっと困っちゃうんですけども。その範囲内で、じゃ、今回はどこ行こうかとかというのは、話していただく余地はあろうかと思います。

原嶋議長 1回ということで、まずは前提として。
では、その他、ほかにありますか、よろしいですか。どうぞ。

小堀生涯学習係長 それでは、事務局からです。

北村委員が小委員会の委員から外れることになったため、1名が欠員となってしまうので、どなたか委員になっていただけないかという相談になります。

原嶋議長 小委員会を、いわゆる減員になることであるので、これは明確であると。

石原生涯学習課長 どなたか1人選任していただいても構いませんよというのは、北村委員の。

原嶋議長 このことで何かお話し合い。ここで決めてしまうことになるわけですか。

石原生涯学習課長 のほうが、次、欠員でやらずに済むと思います。

原嶋議長 ご協力していただく方はどうですか。

小山田委員 その都度日程調整をする感じですね。

原嶋議長 あと1年ということですね、だから。

石田委員 何か顔を見られてしまったら。日にちによっては出られるということで。日にちによっては出られませんが。火木は絶対駄目なんです。あとはフリーですけど。かわるよと言えば、させていただくことはできます。

原嶋議長 よろしいですか。小堀さん、このことで、では石田委員にお願いして。もう1年しかないのです。

小堀生涯学習係長 よろしく申し上げます。

西田生涯学習部長 石田委員にはいろいろ委員を兼ねていただいて。

石田委員 科学の祭典は今年何とか抜けようと思っているので、余裕をつくらうと思っています。来年度には、もうちょっと。ちょっとばてぎみです。

西田生涯学習部長 社会教育には欠かせない方なので。

原嶋議長

では、超ご多忙の折、よろしく申し上げます、石田委員さん。

2番の報告、その他、もういいですか。よろしいですか。じゃ、リオオリンピック・パラリンピックの関係事項についてということですね。報告に入っていいですね。じゃ、協議事項はおしまいにします。

では、申し上げます。

石原生涯学習課長 オリンピック・パラリンピックの関係でございますけれども、

まず9月5日の午後6時30分から宮地楽器ホールの大ホールでオリンピックの出場報告会を開催いたしました。出場されたオリンピックは、日本郵政グループ女子陸上の鈴木亜由子さんと関根花観さん、それから女子ラグビー7人制の東京学芸大学OGの谷口令子さんにご参加いただきました。

それで、500席以上の観客席について、300名以上の市民の方の来場がありまして、非常に華やかに出場の報告会のほうを開催できたというふうに思っております。

それから、パラリンピックに情報通信研究機構の吉田信一選手が車椅子卓球で出場されてございまして、今度の11月2日の同じく午後6時30分から、今度は宮地楽器ホールの小ホールのほうになるんですけれども、吉田信一選手のパラリンピック出場報告会を開催いたします。当日は車椅子、卓球台も持ち込んで、吉田信一選手と対戦してみようみたいな企画も取り入れていこうと思っておりますので、お時間ございましたらご出席いただければと思います。

以上でございます。

原嶋議長

ご苦労さまでした。ただいまの報告で、何かご質問ありますか。

なければ、(2)に移ります。科学の祭典については、石田さん、何かありますか。

石田委員

済みません、朝、開会式のほんとうに9時半から10時ちょっと過ぎまですごい雨が降ってしまって、開会式そのものが大分もたもたしてしまって申しわけなかったと思っているんですが。

ただ、今年は夏休みの生徒作品の優秀賞が、昨年も受けた方、やはり今年も対象を受けてというような、レベルがとてもアップしているということで大学の先生がとても喜んでおりました。

そして、午後からは大分人出も多くなって、けが人とか何かは、鼻血を出した子とか、ちょっと足を、積み木を踏んでこすったとかという方が5人くらいだけで、ほとんどけが人らしいけが人も出なくて、何とか無事に終わりました。7,750名くらいの参加人数だと思います。

ということで、無事に終わって皆様の協力のおかげと思っています。ありがとうございました。

原嶋議長 ご苦労さまでした。10月3日は準備にいらっしゃった方もご苦労さまでした。

この科学の祭典については、三者合同についての際に、各委員さんからのご感想、図書館とか公民館さんなんかも、今年は新しい企画で入ってきたものですから。それでは、感想をいただくかなというふうに思っています。順番とかじゃなくて、とにかく気づいたことだけでよろしいんですけれども、どうですか。

原田委員 私、初めて参加したので。正直びっくりしました。あんなにたくさん来るものだとは思っていなかった。少子化ってうそじゃないかというぐらいに、小さい子を連れた若い夫婦がいっぱい来ているんですね。あれ、小金井市だけじゃなくて、この一円から来るわけですか。

石田委員 はい。チラシは小金井市は全学童なんですけど、あと、小平、府中、国分寺、それは各学校ごとに200枚ずつチラシを送って、あと、狛江が市そのもので参加したいということで、狛江にはチラシを。

原田委員 もう予想をはるかに上回る盛況だったのでびっくりした。それが一つ。

もう一つは、フレクサゴンが自分でやってもなかなか飲み込めなくて、こんなもの一体子どもはできるのか、喜ぶのかと思っていたんですが、これも見事に予想を裏切られ。

石田委員 よかったです、心配でした。

原田委員 いや、子どもたちはすぐできるんですね。小さい子ほどすぐ飲み

込んでやっているというので、これもほんとうに目を輝かせてってよく言いますけれども、文字どおりそうでしたね、あれもびっくりしました。いい体験をさせていただき、ありがとうございました。

原嶋議長 ほかに何かありますか。

柴田委員 よろしいですか。

原嶋議長 どうぞ。

柴田委員 高校生のボランティアの方たちがすばらしく動いてくださって、私、少しの時間しか行かなかったんですが、何もやることがなかったような、最後の片づけだけというような感じで、ボランティアの方の活躍を目の当たりにして、ほんとうにすばらしいと思いました。

石田委員 済みません、私、それをもし参加人数が少ないと思って10名ですか、要求してしまったので、多過ぎましたでしょうか、高校生が。

小山田委員 確か欠席の方がいらっしゃって、あと2名、別なところが足りないからということで行ってしまわれたので、7名ぐらい。

石田委員 7名ぐらい。人数としては多過ぎましたでしょうか。

小山田委員 ちょっと多いかもしれない。ただ、休憩とかが交代の時間だと、ちょうど半分半分でやってもらえたので、休憩を考えるとちょうどよい感じですよ。

石田委員 じゃ、5名から6名ぐらいで大丈夫ですかね。

原田委員 あのくらいいても、みんなマンツーマンで教えていましたからね。この子にはこの子が教えるみたいな。よかったと思いますけどね。あぶれて暇をもてあましている感じはなかったです。

石田委員 よかった。ちょっと心配だった。多過ぎたかなと思って心配だったんですが、高校のほうが、公式試合にぶつかってしまったので、

高校生そのものが少なかったんです、今年は。なので。じゃ、来年は五、六名。

原嶋議長

あとよろしいですか、この件は。

また来年に向かって一工夫しなくちゃいけないのかなというところもありますけれども、お疲れさまでした。よろしく願いいたします。

また、三者合同の際に、遠慮なくご意見を頂戴したいというふうに思っています。

報告のその他。ありますでしょうか。どうぞ。

小山田委員

昨日ですが、小金井市の放課後子どもクラブ運営委員会が開催されて、一応参加させていただきました。佐野委員も別のところで一緒にご参加されていたんですけれども、進捗状況ということで、前期の活動状況というところ、ほとんど前年度と同じような形で順調に活動自体は行われているということが、各小学校からの報告がございました。三小が、ちょっとおやじの会との共催とか連携というところで、三小だけがおやじの会と、今、一緒にやろうとされているというところで、ちょっと線引きが必要じゃないかというような課題というか、そういったお話がありました。

あとは小委員会をつくられていて、こういった放課後子ども教室の運営の手引きというのがやっとまとまったということで、まとめられたということで、それでちょっと一旦小委員会は終わられて、また、ただ、この手引きをつくられている中で、中学生の居場所の問題、中学生の放課後子ども教室がどうでしょうかみたいなような問題ですとか、あとはPTAとの関係、あとは新規立ち上げる場合、あと学童保育との連携というような、まだ課題が残っているということで、これはまた小委員会というお話し合いを続けるか、本委員会とか、何かしらの形ではそういった課題については話し合っていきたいということではあったんですが、一応、小委員会のほうは、一度これができたということで終了されたということです。

その後、実際に学童保育と、今も、先ほども佐野委員もお話があったんですが、放課後子ども教室と学童保育のほうの連携というのが、今後、一応31年度までに文科省からの方針もあるという中で、どういうふうに小金井として打ち出していくかということが課題

であるということで、石原課長からもご説明があつて、一定の方向で話し合いながら、これからそちらに向けてやっていかれるのではないかというようなことで、またいろいろなお話し合いがあるのではないかというところです。

あと、中学生の居場所づくりというのも、中学校の放課後子ども教室についてという話もあつたんですが、私どもも見学に行ったので、何かしらちょっとそういった情報は、ペーパーも何もなかったので、何も出せなかったんですけど、一応そういうこともあるようなことは、お話をしてもいいのかなというのは、ちょっと思っております。

あとは、放課後子ども教室の見学というのもやっております、一斉ということではなくて、今年度は委員さんが個々にこういったスケジュールをもらっていて、個別対応じゃないんですけども、個々に行けるときに伺うというようなことで、一応委員の見学というのもやって、最終的にはまとめていくという動きになると思うんですが、そういうようなことを、今、やっています。

以上です。

原嶋議長

ご苦労さまです。補足のある方、いらっしゃいます、この件、子どもプランのご参加の件で報告がありました。よろしいですね、ありがとうございます。ご苦労さまでした。

その次、報告、その他、ほかありますか。よろしいですか。

それでは、これで終わらせていただきます。

石田委員

済みません、ちょっと下らないことなんですが、11月5日のブロック研修に出させていただくんですが、懇親会にも申し込ませていただいたんですけども、皆様で話して、いろいろ話しているうちに自己紹介をするので、小金井市社会教育委員の会議の名前と住所だけを入れた自分の名刺みたいのをつくってもよろしいでしょうか。自分でつくって。

石原生涯学習課長　ほんとうはこっちで予算化すればいいんでしょうけど、なかなかそこまでの消耗品費を計上してございませんで。

石田委員

勝手にパソコンでつくる名刺用紙で、話していて、仕事の名刺を

出すとか何かなので、小金井市の社会教育委員の会議の委員、石田静子でつくらせていただくと何枚か話していて楽になる。いいですか、済みません。

石原生涯学習課長 図書館協議会も。

石田委員 わかりました。

原嶋議長 そうだね、三つも四つも肩書が大変ですね。

石田委員 三つも四つもいいです。もう科学の祭典で……。

原嶋議長 ほかによろしいですか。ほんとうに終わりますよ、じゃ、なければ。
では、今日はお疲れさまでした。ご協力ありがとうございました。